

# 電気代怖い 冷房使えない

「冷房は油断。けれど電気代が怖くて使えない」「2月にエアコンがない」。生活保護利用者が切実な声が上がっています。全大阪生活と健康を守る会連合会（大生連）の2023年夏の生活実態アンケート（247人分）では、回響した保護世帯の9割が自宅にエアコンを設備しているにもかかわらず、使用は半数、半数が扇風機などでしのいでいます。物価や電気代が大幅に値上げされる一方で、保護費はじわじわと減額。生活困窮世帯が命の危機にさらされています。

（速水大地）

## 大阪



自宅で過ごす丸山さん

### 生活保護利用者 命の危機

22年度7月の熱中症の救急搬送状況は、総務省の調査で「65歳以上の高齢者が最も多く55%、男性が最も多く45%、生場所が「1階」が最も多く40%で、「道路」17%、先、我慢して倒れるほうがや「屋外」13%を大きく上回っています。大阪府警察医療事務所が対応した熱中症死亡者数は78人で過去最多となり、9割が「自宅」で発生、うち6割が「55歳以上」の割合が半数ですが、昨年7月と併用数はほぼ同じなのに電気代は3千円以上増加。安心しずらな生活が広がる生活保護に悩んでいます。電気代のために食費を削るしかない。また自販機に頼るので、家から離れた安売りのスーパーまで行き、買切りの品を買っています。

比較的最新のエアコンで電気代は抑えられていますが、昨年7月と併用数はほぼ同じなのに電気代は3千円以上増加。安心しずらな生活が広がる生活保護に悩んでいます。電気代のために食費を削るしかない。また自販機に頼るので、家から離れた安売りのスーパーまで行き、買切りの品を買っています。

数年前にエアコンが故障した堺市の田中信二さん（70代、仮名）は「今年はお腹でできる」と6月に購入を検討。厚生労働省は2018年から保護世帯にエアコン購入費の支給（現在、最大6万5千円）を認めていますが、条件は新規保護開始か転居先にエアコンがない場合などに限られ、田中さんは該当しません。

保護費下がる どうすれば…

「エアコンは命の要。ここにはは入れない」と話すのは、大阪市平野区に住む丸山修さん（76）。6代半で過ごしますが、保護費は



大阪市交野で開かれた生活保護利用者の会

購入などについて、府や市は「最低生活費のやりくり」を原則とし、必要な場合は「社会福祉協議会」の貸付を助めています。しかし生活保護の削減削減が物価高騰で貯蓄の余裕はなく、田中さんの場合、貸付を申請しましたが、保護利用前に返済し切れていない貸付があることから、現状で貸付の申し込みは立っていません。

保護利用が長い人や古い機器で故障しやすい、冷房なしで我慢してきた人も多く、「故障したら打ち手がなし」という声は絶えません。府や政令市である堺市は、夏季一時金やエアコン設備について「国が責任をもって行うべきもの」「独自の給付制度は困難」としています。千原真流山市では、生活と健康を守る会の粘り強い要請もあり、独自施策が実現。低所得世帯を対象にエアコン新機購入・買い替え

昨年と使用量はほぼ同じなのに3千円以上増加